

発刊にあたって

「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」は、内閣官房及び農林水産省が、「強い農林水産業」、「美しく活力ある農山漁村」の実現のため、農山漁村の有するポテンシャルを引き出すことにより地域の活性化、所得向上に取り組んでいる優良な事例を選定し、全国への発信を通じて他地域への横展開を図るもので、今年度(令和5年度)で10回目となります。

中国四国農政局管内では161件の応募があり、「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」として7地区と2名が選定されました。

また、中国四国農政局では、応募のあった地区(者)の中から、他の地域の参考となるような優良な事例を、中国四国農政局「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」として12地区と1名を選定するとともに、今後の活躍が期待できる事例を、「奨励賞」として23地区と1名を選定しました。

さらに、今回は「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」が平成26年から始まり、第10回を迎えた記念として、過去に選定された優良事例の中から、選定後に著しい発展性がみられ、全国の模範となる事例を募り、18地区と4名の応募がありました。

今年度、応募のあった地区(者)の事例について、その地域の「農山漁村(むら)の宝」として広く発信するとともに、身近な地域の取組として紹介するため、県別の事例集を作成しました。

各地域において参考にさせていただき、農山漁村や農林漁業への関心を深めていただくきっかけになれば幸いです。

※「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」の情報は、中国四国農政局のホームページをご覧ください。

URL: <http://www.maff.go.jp/chushi/nouson/kaseika/discover.html>

令和6年3月

中国四国農政局農村振興部都市農村交流課



目 次

○ 「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」全国選定 及び 中国四国農政局「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」 の取組概要	1
○ 応募地区一覧	5
○ 応募地区位置図	6
○ 応募地区の取組事例	7

第10回ディスカバー農山漁村(むら)の宝 全国選定



島根県大田市

大田商工会議所

グランプリ

★漁獲高の大半が県外に出荷され、市内でほとんど消費されない大田市産あなごの大きさと美味しさに着目して、10年間で14%の人口減少が進む大田市の活性化を目指し、「大田の大あなご」の名称でブランド化に取り組む。

★大きくなるにつれて脂質が増え旨味成分が増していることをデジタル検証によって確認。観光DMOや飲食店等を巻き込んで協議会を形成し、料理コンテストの開催や出前授業を通じて大あなごの魅力を継続して発信。



行列ができる飲食店のあなご天井と漁業者

島根県大田市

笠木 真衣

優秀賞

★平成22年から羊毛加工の技術を学び、平成28年に創業。平成30年に島根県大田市に移住して、ヒツジの飼育を開始。飼養のノウハウを蓄積しながら自家羊毛製品を開発。

★農地(5反)を取得し米を作り、羊のフンや敷藁を堆肥化して活用。生産した米は「ヒツジ米」として販売。羊の放牧による除草や、自治会と共同で毛刈イベントを開催。



糸紡ぎのようす



ヒツジの放牧風景

高知県大月町

大月町備長炭生産組合

優秀賞

特別賞

★地域に自然分布するウバメガシから備長炭を生産。貴重な資源であるウバメガシを将来に残すため、循環利用可能な山づくりや苗木づくり、植樹祭等の人と自然の共生社会づくりを実施。

★地元小中高生への森林環境教育の継続的な開催のほか、育成した苗木を町有林に植栽することで資源循環利用による持続的産業を実現。



植樹祭



小学校での「製炭学習」

広島県神石高原町

株式会社BINGO

特別賞

★有害駆除される猪の9割が埋却されるなど、捕獲後の処理が課題となっていた地域で2箇所の処理施設を新設。止め差し・搬出・行政への報奨金申請まで一貫して対応し高齢狩猟者の負担軽減、若手狩猟者の獲得及び命を有効活用する取組。

★個体判別により食肉用とペットフード用に分けることで顧客満足度を向上させ、地域のジビエ肉のブランド化やペットフードの輸出も視野に入れるなど活動を拡大。



処理された猪肉



ペットフード
プロモーション活動

愛媛県伊方町

朝日共販株式会社

特別賞

★フェリー乗客の集客やイベント開催で、地元の一次産品を発信する地域活性化活動、大学生と共同し、しらすを有効活用した新商品開発の他、輸出拡大に向けた取組を実施。

★バイオプラスチックトレーへの切替えや地元漁協・ダイビングスクールと連携した藻場礁の設置実験等の環境保全活動、子どもたちへの食育活動を実施。



しらす漁



藻場礁設置

高知県黒潮町

特定非営利活動法人
NPO砂浜美術館

特別賞

★4kmの砂浜を美術館に見立て、四季折々のアートイベントを開催。町外からの運営ボランティアの宿泊と食事は、中山間地域にある集落活動センターと連携し、地元住民と交流。

★砂浜に隣接したスポーツ施設を活用して合宿や大会を開催し、宿泊・弁当等を手配。また、南海トラフ巨大地震の津波予測をきっかけに防災学習プログラムを開発し、主に中高生の教育旅行を受け入れを実施。



Tシャツアート展



海の脅威と恵みを学ぶ
防災学習プログラム

- ★ECサイトやSNSを活用して消費者から事前に注文を受けて、必要な魚だけを獲る国内初の「完全受注漁」を実施。
- ★水産資源の乱獲、価格の不安定性、漁師の過労問題、後継者不足問題といった、現在の漁業の課題解消に取組。



国内初の「完全受注漁」に取り組む富永夫妻



鮮魚セットを作っている様子

- ★オーナー不在のぶどう園を、リカレント教育受講を通じて関係構築した社会福祉法人と共に引き継ぎ運営。農福連携で生産した果実を加工し付加価値をつけて販売することで収益性を高めるとともに、サステナブルな商工農福連携活動を実施。
- ★収穫したぶどうの規格外品をジャム加工しパンを販売する他、農福連携事業者から苺を調達して新たなブランド化を行うなどの取組も実施。



オーナー不在の竹原市の令和5年 新ブランドぶどう園を再生 「果実なくリーむパン」

- ★地域の海・山・里の豊富な食材を一つの取組に巻き込むコンテンツとして「プリン」に着目。「デザート」と「デリカ(惣菜)」の2カテゴリーのプリンを活用した官民連携のまちおこしを実施。
- ★1次生産者等の所得向上や地域内消費の拡大、食の付加価値向上に向けて、広島みはらプリンの認定や催事への出店、販路開拓等を実施。



各催事では約15~20種のプリンを販売



ガイドブック「おでかけプリン」

中国四国農政局「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」選定



- ★沿岸漁業者(小型底曳網)が中心となり鮮魚を直売。平成25年から令和4年までの間、漁村市を28回開催。現在は年4回毎回1500人前後が来場。消費者と直接言葉を交わして魚の特徴、調理方法を伝え、効果的に魚食を普及。仲買と連携し、ふるさと納税返礼品としても提供。
- ★地元高校が市を課題研究の場とし、市の運営に協力。地元水産関係企業へ就職する生徒も。園児には売り場見学やタッチングプール等の食育も実施。



大盛況の中野港漁村市



高校生が未就学児に境港サーモンを見せる

- ★永田集落農地・水保全管理活動組織を中心に行ってきた棚田のシバザクラ植栽活動、農村景観による都市との交流の広域展開、更なる地域活性化のため令和4年度設立。シバザクラ9万本、花桃500本を植栽。
- ★春に「猿隠高原シバザクラ祭り」を開催。SNS等で積極的な情報発信を行い4年度は約4,000人来場。関係人口増と地域活性化に効果。



各スポットにシバザクラ花絨毯と花桃が満開に



「シバザクラの里猿隠高原比田米®」販売中!

- ★日生町にて漁協、小中高生、消費者等が協力しアマモ場を再生。アマモ場や再生活動を海洋教育の土台とし、地域内外の学校や市民、様々な業種の人々が地域や世代、立場を超え共に取り組む。
- ★海洋プラチックごみも、子どもたちと拾い、どこから流されてくるか一緒に考え、ごみを使ったアート作品を作る。令和4年度の海洋教育と体験の参加者数は2,532人。



アマモ流れ藻回収



小学生による海ゴミの回収

カンキツスタンドオレンジ

- ★様々な柑橘が生産されている瀬戸田地区が抱える、生産者の高齢化、柑橘加工品の販売先確保等の課題解決の取組。
- ★地元の株式会社Stapleが令和4年7月から瀬戸田の柑橘を専門に扱うジューススタンドをJR尾道駅1階に開業。農家と直接取引を行い現在23種類の柑橘ジュースを販売。令和4年度売上は10,800千円。
- ★取引生産者は3軒から10軒まで増加。店舗販売以外に広島市内や都内でのイベントに積極的に出店し、瀬戸田の柑橘をPR。



店舗で販売をしている
ジュース・かき氷



瀬戸田の柑橘農家と
共同開催をした
ジュースの試飲会

株式会社神東ファーム

- ★平成30年、神東地域振興協議会が地域おこし協力隊員とレモン栽培を構想中「後発組は希少価値の高い新品目で勝負」とマイヤーレモンを選択。
- ★栽培方法を習得後、同協議会の部会「レモンの会」を発足し、借り受けた耕作放棄地を開墾。行政の支援で(株)神東ファームを設立。
- ★地元銀行等の支援を受け、地元大手スーパーや老舗旅館など県内販路が定着。果汁100%の「そのまんまのマイヤーレモン」も今年から販売し千数百本が完売。令和4年度の収穫量は7t、売上は3,400千円。



11月頃のマイヤーレモン



小学生の農業学習

一般社団法人 そらの郷

- ★世界農業遺産認定「にし阿波の傾斜地農耕システム」による農山村のサステナブルな暮らしを体験する観光で、観光客増による所得向上、新たな雇用創出等地域活性化に取り組む。
- ★体験型教育旅行として、都市部中学生・高校生の受入家庭での農作業体験、収穫物の共同調理など農泊体験を商品化。
- ★農山村散策や農家での餅つきなどを組み込んだツアーによるインバウンド誘致が、「桃源郷」と称される農山村の風景や文化、地元農業者等のホスピタリティの面で高く評価されている。



伝統的な農作業
ツチアゲ体験



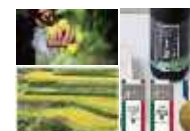
地元農家との交流
(餅つき体験)

株式会社本家松浦酒造場

- ★酒造会社が県内の様々な関係者と連携して行う取組。
- ★平成元年から原料を全て徳島県産にした日本酒の製造や平成24年から徳島県上勝町の棚田米を使用した日本酒、ゆこう使用のリキュールの製造の取組を通じ、生産者と連携。近隣の醤油蔵と連携した見学会を実施。令和4年度は直売所来場者15,876人、売上は26,000千円。輸出にも取り組む。
- ★大阪国際万博等のインバウンド需要を見据え、YouTubeなどで酒蔵地域周辺を案内する多言語化動画の配信やHPを作成。



酒蔵でのイベント
開催



棚田米やゆこうを
使った酒造り

一般社団法人さぬき市津田地区 まちづくり協議会

- ★津田地区の海辺を中心としたエリアリノベーションと農泊の推進。
- ★使わなくなった漁業倉庫や空き家への新規出店希望者の誘致、移住者支援を実施。令和4年に市と連携し地域おこし協力隊制度を活用した新規出店(ピザ店)をきっかけに出店増加。応募時点で4店が開店し今後も開店予定。
- ★地域おこし協力隊募集の際、採用者以外の応募者も協議会等がサポートし、家族を含む9名が市内に移住。



PORTO
PIZZA



空き家DIYの様子

愛媛県西条市

愛媛県立丹原高等学校 草花班

- ★地域を花木の一大産地とするため産官学民が連携し、苗の生産技術を確立する取組で、苗生産が不安定な品目の穂木～発根～出荷のプロセス構築の研究を同校が担当。
- ★同校の菊栽培技術を応用し平均19%の発根率が62%と有効性を確認。挿し穂の直径や挿し木時期による違い、地元JAと連携した生育環境での違いも調査。農家に還元可能な技術として成果は県東予地方局の「花木栽培マニュアル」に掲載され普及。地域では花木を主とした新規就農者も誕生。そのほか花木のPR活動も実施。



花木のPR活動



産官学民連携
プロジェクト成果発表

愛媛県宇和島市

企業組合津島あぐり工房「あすも」

- ★平成15年創業。地域の豊かな農水産物の加工品・惣菜など製造販売。地域農産物の需要拡大と、地域経済活性化による成長持続型活動を展開。
- ★平成24年「企業組合津島あぐり工房」として法人化。農家レストラン「あすも」をオープン。令和4年度の売上は42,000千円。スタッフが創業当初の4人から9人に増え、令和4年から廃校活用の新店舗に移転。
- ★平成30年西日本豪雨災害の教訓で始めた月一回の「ふれあいモーニング」は1日100人以上が来店。地域コミュニティの場に。



人と食、人と地域、
食と地域をつなぐ活動一覧



廃校教室を活用した農家
レストラン部門「あすも」

高知県香南市

井上ワイナリー株式会社

- ★高知の気候・風土に適したブドウ品種を選び、県内各地の生産者と一緒に栽培。県内各地の様々な料理と合うワインを醸造し高知の新しい食文化を提唱。
- ★平成24年に南国市で定植以来、栽培を5市町に拡大。耕作放棄地も再生。地元の老人クラブや高校生に収穫やラベル作りの手伝いを依頼。
- ★令和3年に自社醸造を開始、令和4年にショップを併設。ワインの試飲・販売、地域食材使用のグロスリー商品等販売。売上は令和4年度61,822千円。



地域の方々と共に
収穫作業



地元高知産ブドウを
使用したワイン

高知県津野町

農村交流施設「森の巣箱」運営委員会

- ★住民の声をきっかけに、廃校となった旧小・中学校の校舎を活用し平成15年に設立した「森の巣箱」は、集落コンビニ、居酒屋、宿泊施設を備えた複合交流施設。
- ★安定経営のため、運営費用は各世帯の出資金、世帯毎に毎月「購買協定」を締結。宿泊施設で得た外貨も活用した、補助金に頼らない運営。施設職員(常勤1名、パート1名)以外住民も役割分担。
- ★イベント開催や修学旅行生受入も実施。令和4年度の売上は、コンビニ1,636千円、居酒屋1,282千円、宿泊施設3,039千円。



集落コンビニ



居酒屋

徳島県阿波市

寺井 稔

- ★平成24年に発足した阿波市の農業後継者グループ「GOTTISO阿波」の中心メンバーとして活動。
- ★農業や野菜の魅力発信、所得向上や農業人口増加を目指した活動、野菜の出張販売や広報を行い、地域のナスをブランド化。ナス好きの子供を増やそうと地元幼稚園や小学校で食育実施。
- ★グローバルGAP等を取得し2020東京オリ・パラの選手村へブランドナスを納品。それをきっかけに輸出、新たなブランド野菜育成に努める。



コロナ禍が明け
試食販売を再開



食育の授業

「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」(第10回選定) 応募地区(者) 一覧 (岡山県)

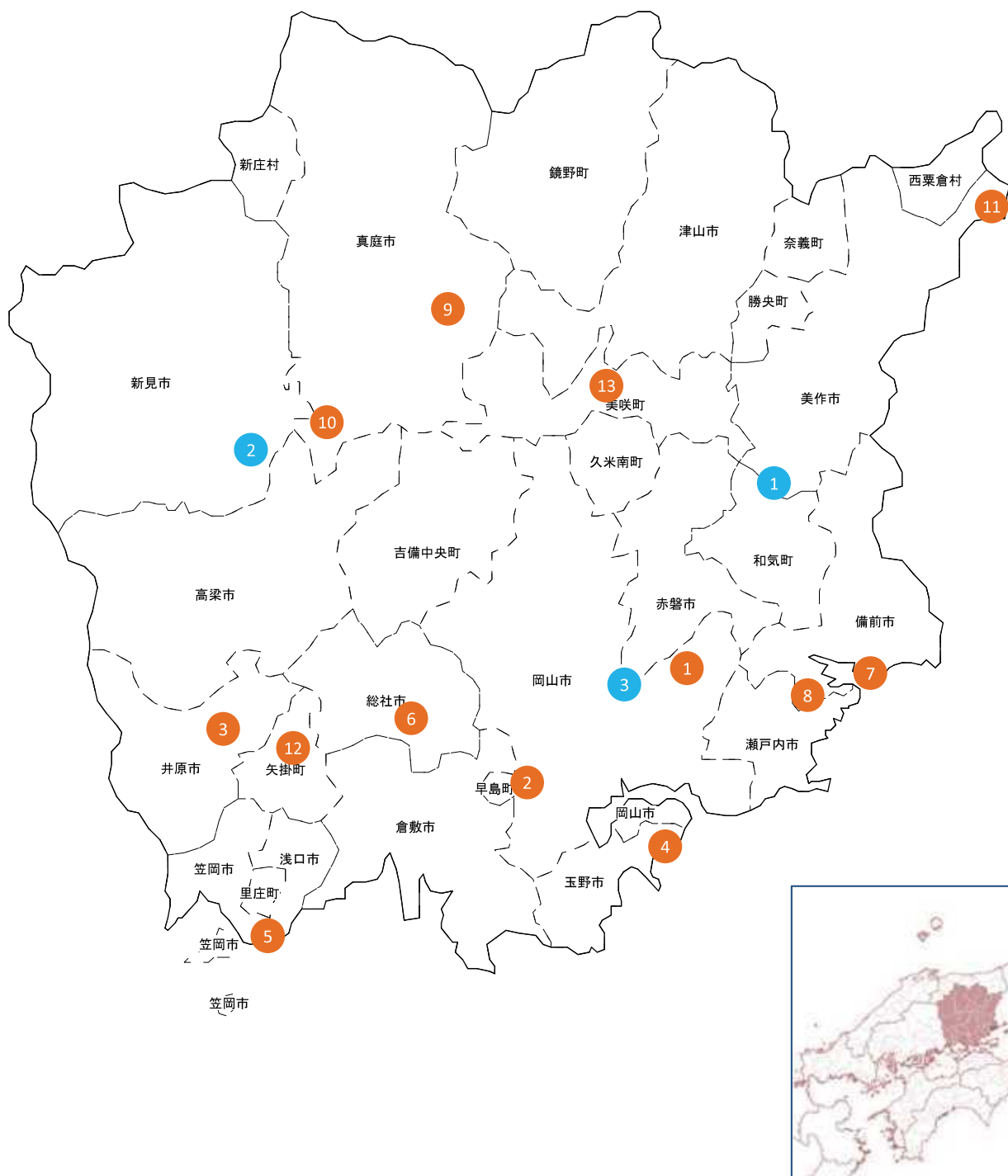
No.	選定 地区	部門	市町村	地区名/氏名	該当する取り組み		
①		団体	岡山市	おかき戦隊瀬戸南じゃ～ (岡山県立瀬戸南高等学校)	6次産業化	地産地消	環境保全
②		団体	岡山市	岡山高等学校コメ作り×エシカル消費プロジェクト	農業	企業との連携	地産地消
③	奨励賞	団体	倉敷市	有限会社阪本鶏卵	女性の活躍	地産地消	関係人口の創出
④		個人	玉野市	富永邦彦(邦美丸)	6次産業化	地産地消	豊かな海を守る
⑤		団体	笠岡市	NPO法人 海の校舎大島東小	企業との連携	移住・定住	関係人口の創出
⑥		団体	総社市	レッドライスカンパニー株式会社	6次産業化	伝統の継承	輸出
⑦		団体	備前市	一般社団法人 みんなでびぜん	環境保全	教育機関との連携	—
⑧		団体	備前市	東鶴山地区を元気にする協議会	食育・教育	高齢者の活躍	女性の活躍
⑨		団体	真庭市	NPO法人真庭めぐりガーデンプロジェクト	6次産業化	伝統の継承	女性・高齢者の活躍
⑩		団体	真庭市	中津井せんだんの会 遺産保存部	伝統の継承	農村環境・ 景観保全	地域活性化
⑪		団体	美作市	FARM RESORT あわのわ (東粟倉農泊推進協議会)	農泊	農村文化体験	ジビエ
⑫		団体	矢掛町	一般財団法人矢掛町観光交流推進機構	農泊	農村文化体験	高齢者の活躍
⑬		団体	美咲町	たまごかけごはんの店「食堂かめっち。」	6次産業化	棚田保全	地産地消

第10回記念賞応募地区(者)

No.	部門	市町村	地区名/氏名	過去の選定実績
①	団体	美作市	特定非営利活動法人英田上山棚田団	平成28年度(第3回)選定
②	団体	新見市	草間台エコミュージアム推進協議会	令和3年度(第8回)選定
③	個人	岡山市	植田 輝義	令和3年度(第8回)選定 (優秀賞)

応募地区（者）位置図（岡山県）

※ 青は第10回記念賞応募地区(者)



せんたい

せとなん

おかやまけんりつ

せとみなみこうとうがっこう

おかき戦隊瀬戸南じゃ～(岡山県立瀬戸南高等学校)

～商品開発と交流で地域活性化を目指して！～



中学生に多数回中耕除草実演



地域の販売会で歌を披露

経緯

- 平成28年、6次産業化の学習をし、学生の商品開発への気運が高まり、プロジェクトチームを立ち上げ、自ら栽培したもち米と地元特産品を原料に新商品を開発。
- 以前から、菜の花農法、レンゲ農法など、有機稲作に取り組むが、令和4年、多数回中耕除草による有機稲作栽培研究チーム「PioneerR. G.」を結成。

取組内容

- 新商品「瀬戸南おかき」の開発と併せて、「おかき戦隊瀬戸南じゃ～」を結成し、カラフルなつなぎを着て地域イベントに参加。販売活動や地域特産品の宣伝に取り組む。
- 地域活性化に向けた取組を進める中、地域、企業等と協力し「自動操舵システムを活用した多数回中耕除草」による実証試験を行い、事例発表を実施。

活動の効果

- 「おかき戦隊瀬戸南じゃ～」の活動は、メディアでも取り上げられ、地域特産品の宣伝効果も大きく、商品開発では、「瀬戸南おかき味噌味」が地元の製菓会社の新商品開発のヒントとなり、現在、商品化されスイスなどに輸出。
- 「自動操舵システムを活用した多数回中耕除草」による無肥料・無農薬栽培の成果は、各発表で大きなインパクトを与え数々の賞を受賞。

応募団体からのアピール・メッセージ

農業者がこだわりを持って生産する農産物を使い、学生・農家・企業が連携して新商品を開発するモデルを作りたい。

「自動操舵システムを活用した多数回中耕除草」を通して、誰もが取り組める有機稲作を普及していきたい。

Instagramなどで情報発信し、農業に興味を持つ若者を増やしていきたい。

住所・電話番号・SNS等

岡山市東区瀬戸町沖88 Tel:086-952-0831 Instagram:snn_okk

おかやまこうとうがっこう

づく

しょうひ

岡山高等学校コメ作り×エシカル消費プロジェクト

～「ツバサクラ」から広げる課題解決の輪～



水田での牡蠣殻散布の様子



開発商品の「里海米」と「syako can」

経緯

○コロナ禍、米の取引量が激減し、苦境に立たされた農家の状況に触れ、令和3年1月、2年生が「総合的な探求の時間」を活用し、米の栽培を通じたエシカル消費の啓発活動を開始。

取組内容

- 「瀬戸内かきがらアグリ」事業に参加し、牡蠣殻を土壌改良材として水田に還元する「里海米」を生産。生徒が栽培した米を商品化し、高校キャラクター「つばさくん」「さくらちゃん」にあやかり「ツバサクラ」と命名。
- 瀬戸内海の環境課題啓発のため、高校内の他テーマを探究するグループと協働し「syako can」(シャコのリゾット缶詰)を開発・商品化し、各種イベントで販売。

活動の効果

- 高校生の活動として発信を行うことで、これまで情報を届けることができなかった対象に取組を伝えることができ、認知拡大に貢献。
- 地域法人と連携し「ツバサクラ」を使用した防災食レシピを考案し、「おかやまSDGsフェア」飲食ブースで調理・販売。
- 今年度から「瀬戸内かきがらアグリ」事業に参加する他校と連携。

応募団体からのアピール・メッセージ

「ツバサクラ」を活用した他団体との協働をさらに広げ、県内農産物を用いた地域の課題解決と活性化に貢献したい。

卒業生の中から大学で農学や地域学を専攻する事例もあり、プロジェクトを通じた長期的な地域人材育成も見据えて活動を継続していきたい。

住所・電話番号・SNS等

岡山市南区箕島1500 Tel:086-282-6336

奨励賞

ゆうげんがいしゃさかもとけいらん

有限会社阪本鶏卵

エッグマルシェ ～ 卵で地域活性化 ～



令和5年夏エッグマルシェ開催



出店者とボランティアスタッフ

経緯

- 卵は長年物価の優等生として販売価格が上がっていない。これを脱却するため卵の新たな価値をつくる必要性を感じていた。
- 卵の生産者ができる地域貢献や卵の魅力を広く発信していく方法を模索し、卵が中心となったマルシェイベントの開催を思いついた。

取組内容

- 卵を中心としたマルシェイベント「HOSHINOSATO EGG MARCHE」(以下エッグマルシェ)は令和3年秋、井原市美星町にある美星直売所にて、出店3店舗からスタート。
- 開催告知を、出店者、町の飲食店、観光案内所などで行うなど、地域がチームとなり、エッグマルシェを作る事を目指し取り組んでいる。
- 新しい取り組みを積極的に行い、開催ごとに新商品のお披露目などを実施。

活動の効果

- イベント創出により、5名の地域スタッフを雇用。
- 各出店店舗がチームとなりエッグマルシェを作り上げることによって、各出店店舗のファンを地域内外から呼び込む事で、卵や地域の良さを実際に感じていただける効果が高い。実際にエッグマルシェはリピーターが多い。
- 近隣の飲食店にエッグマルシェ経由の来店があったり、出店者同士のコラボレーションが生まれたり、イベントを開催する事での波及効果があった。

応募団体からのアピール・メッセージ

令和5年春の開催からは、ボランティア制度の運用を開始し、会場設営などの様々な手伝いをお願いしている。地元の女子バレーボールチームもボランティアスタッフとして参加し、地域の輪がどんどん広がりをみせている。

住所・電話番号・SNS等

倉敷市南畝3-13-31 Tel:086-455-7370 <https://www.sakamoto-egg.com/>

とみながくにひこくにみまる

富永邦彦(邦美丸)

～ 完全受注漁による持続可能な漁業 ～



国内初の「完全受注漁」に取り組む富永夫妻



鮮魚セットを作っている様子

経緯

○現在の漁業は、過剰な漁獲による環境負荷、漁獲量や価格の変動による不安定な経営、漁師の過労、後継者不足が問題。問題解決には、根本的な働き方改革が必要と考え、新たな「完全受注漁」の取組を開始。

取組内容

○完全受注漁は、消費者から事前注文を受け、必要な魚だけ漁獲し、その他をリリースする漁業システム。
○「あなたの専属漁師」をコンセプトに、ECサイトやSNSを活用し、情報発信や受注を実施。飲食店や一般家庭に、新鮮な魚を確実に届けることで、多くの顧客を獲得。販売価格は、自社が設定し、直接販売することで、経営を安定化。

活動の効果

○完全受注漁は、水揚げを効率的に管理することで、売り上げを維持し、労働費、燃料費、資材費等を抑制。また、漁業のイメージを変え、当地域でも漁業就業の問い合わせが増加、新たにに取り組む漁業者が現れるなど地域が活性化。
○このサステナブルな取組は、資源を守りながら働け、SDGsにも貢献でき、海外からも講演・取材のオファーを受けるなど、国内外が注目。

応募団体からのアピール・メッセージ

完全受注漁の導入で労働時間が削減され、地域漁協と連携し、漁業体験等の地域サービス提供に取り組み、地産地消も推進することで、地域活性化に貢献していきたい。

持続可能な漁業の実現で、漁業への参入を奨励し、取組を未来の世代へと繋いでいきたい。
一次産業は「自然相手だから仕方ない」と、家族との時間を犠牲にして成り立ってきたが、完全受注漁の導入で、家族との時間を確保できるようになった。

住所・電話番号・SNS等

岡山市玉野市胸上1109-5 Tel:080-6240-9230

えぬびーおーほうじん

うみ

こうしゃおおしまひがししょう

NPO法人 海の校舎大島東小

～瀬戸内沿いの木造校舎をシェアアトリエに～



教室がアトリエに



革製品の職人の制作風景

経緯

- 風情ある木造校舎で目の前に海が広がる大島東小学校が廃校になることを知った市内在住のクリエイターが、地元の住民組織や市に工房としての活用を働きかけた。
- 地域住民の思いと一致し、市から賃借する形でシェアアトリエとして令和3年7月に再スタート。

取組内容

- 廃校になった小学校の教室を17事業者が工房やアトリエとして活用。
- これまでに4回、マルシェ「うみの市」を開催。シェアアトリエ入居者や市内外の店舗が雑貨や食品を販売。
- 令和4年2月からアトリエの作業風景の見学や製品の購入ができる「開放日」を月に1度開き、大島地区のにぎわいを創出。

活動の効果

- 同じ建物に異業種のアトリエを設けることで、家具職人やデザイナー、画家、帽子メーカー、デニムアパレルなどの事業者間で情報交換や相談する機会も多く、コラボレーション商品が開発されるなどの独創的な発想が生まれる空間となっている。
- これまで4回開催したマルシェ「うみの市」には毎回2,500人近い人が訪れるなど、大島地区の関係人口の増加に大きく寄与し、県外からの出店者、来客も増えつつある。

応募団体からのアピール・メッセージ

本取組は、大島地区が一体となって地区を活性化させるために立ち上げたプロジェクト。建物や施設の維持管理費の確保等課題は多々あるが、今後は子供たちに「ものづくり」に触れることができる場の提供など、新しい取組も進めていきたい。

住所・電話番号・SNS等

笠岡市大島中2553 MAIL: uminokousha@gmail.com

かぶしきが いしゃ
レッドライスカンパニー株式会社

～岡山の赤米を地域の財産に、そして世界へ～



赤米フェスタ中の写真



赤米田植えイベント(市内の親子が対象)

経緯

- 東京での岡山県の認知度の低さに衝撃を受け、岡山県をPRするため特産品である赤米に注目し、赤米を使用した商品展開を目指し起業。
- 加工品の価格を抑えるため、自社でも栽培を開始。
- 地元の子供などへ赤米を周知するため様々なイベントを開催。

取組内容

- 赤米の神饌において、古代より使われている「総社赤米」の遺伝子を継承した「あかおにもち」を生産。赤米の栄養成分をアピールした商品の開発・販売など、赤米を中心とした6次産業化を実践。
- 平成30年から学校給食に赤米を導入し、現在月1回市内の小中学校で提供。
- アジア圏へ桃ネクター、米国へ甘酒を輸出し、輸出先国の高所得者層から注目。

活動の効果

- 赤米保存会と連携し、大学等にDNA解析や機能性分析を依頼。赤米甘酒や赤米粉で着色料不使用の紅白餅は、健康志向の高い消費者から人気。
- 規格外の果実を集荷し、フルーツ甘酒等の加工・販売を行い、農家の新たな売り先及び足の早い果実を県外にPRする手段となる等、岡山県果樹農業に貢献。
- 平成27年から赤米フェスタを開催し、多くの人の参加とともにメディアが多数訪問するなど、新たな観光資源を創出。

応募団体からのアピール・メッセージ

子供たちが赤米を伝統ある「宝」として認識し守っていくための食育活動のほか、時代のニーズを見据えた商品づくりで、岡山県特産品の知名度を向上させたい。

住所・電話番号・SNS等

総社市上原162-2 Tel:0866-90-3117



いっばんしゃだんほうじん

一般社団法人 みんなでびぜん

～子どもたちを海へ～



アマモ流れ藻回収をする中学生



海ごみ回収をする小学生

経緯

- 昭和60年から日生町漁業協同組合が取り組むアマモ場再生活動に、地元小中高生や消費者団体が参画し、活動が拡大。
- アマモサミットin備前の開催を契機とし平成31年に当法人を設立。
- 令和3年、海を身近に感じ体験を通じ学べる拠点として、「渚の交番ひなせうみラボ」が誕生。

取組内容

- 日生町漁業協同組合と連携して、子供、市民、様々な業種の人達とのアマモ場再生活動を展開。
- 海岸でのゴミ拾いなどを通して、海洋プラスチックごみの環境問題を子どもたちと共に学ぶ。
- 上記の他に、牡蠣むき、底びき網漁業体験など、様々なプログラムを提供。

活動の効果

- 「渚の交番ひなせうみラボ」を拠点に、地域資源を活かした海洋教育・体験を推進し、子供たちが身近に海に接し、海の大切さを知ることなど、次世代の子どもたちが海をより「自分ごと」として捉え、未来へ引き継ぐ行動の輪を拡大。
- 環境問題として海洋ゴミ問題が注視されるなか、瀬戸内海の上陸困難な島々の海岸へ、上陸舟艇を用いて漂着ゴミの回収を行っている。多くの子どもたちがボランティアとして海洋ゴミ回収を行い活動の輪を拡大。

応募団体からのアピール・メッセージ

次世代を担う子供たちに海の大切さを伝え、活動を継続することで、未来に引き継ぐ場を提供していく。

現在は、海を中心に活動を展開しているが、森・川・里・海のバランスが重要視される中、里山の子供たちとも交流を行い、共に学んでいきたい。

住所・電話番号・SNS等

備前市日生町日生3518-5 Tel: 0869-72-2000

ひがしつるやまちく

げんき

きょうぎかい

東鶴山地区を元気にする協議会

～ふるさと再生 女性・高齢者の活躍や小学生との交流～



「花しょうぶ園」へ子供園の園児を招待



ふるさとサロン

経緯

- 少子高齢化が進み、空き家や耕作放棄地が増加し、山林の管理も問題化。
- 集落機能の維持・強化や地域の活性化を目的「おかやま元気集落」に登録し、空き家対策や6次産業化に取り組み、人口の減少を食い止めたいと協議会を設立（平成27年）。

取組内容

- 耕作放棄地を整備し、花しょうぶ園や栗園を管理。花しょうぶ狩りや栗拾いを通じて子供園園児、小学生達と交流。また、当該地区の道路のゴミ収集・清掃等を実施、地域活動（運動会等）に参加。
- 地元産を使用し、黒ニンニクを製造。果物、野菜の6次産業化にも取り組む。
- 週5日の軽食喫茶や月1回の「ふるさとサロン」を開催。女性や高齢者の憩いの場を提供し、地元野菜などの加工品を販売。

活動の効果

- コロナ禍で中止のイベントも再開し、地域内外の交流が活発化。併せて地元の果物や野菜を使った加工品の製造・販売をすることで、地域活性化への意識が向上。
- 女性部会会員がふるさとサロン等を開催し、野菜や加工品を販売することにより、女性・高齢者が活躍。

応募団体からのアピール・メッセージ

サロンなどのイベントの開催に加え、地域内外のイベントに積極的に参加し、地域住民や会員相互の交流・連携をより活発化していきたい。

6次産業化に積極的に取り組み、地域の特産品作りや魅力発信を行うことで、耕作放棄地や空き家の増加に歯止めをかけたい。

海や山や里などの豊かな自然環境を活かし、若年層の定住化、子育てしやすい環境形成に取り組み、人口の減少を食い止めたい。

住所・電話番号・SNS等

備前市佐山1592-1 Tel:0869-65-8201

えぬぴーおーほうじん まにわ

NPO法人真庭めぐりガーデンプロジェクト

～つながる ひろがる 循環する～



てもて村プロジェクト（大工さん木工教室）



お節介野菜をカットする高齢者達

経緯

- 少子高齢化や人口減少が進み、人手不足による山林や農地荒廃などが問題化。
- 地域にある食・農業・文化・福祉・観光資源を活かすべく、これらを総合的につなげていく循環型社会づくりの実践を開始。未来の担い手養成と多世代交流を循環型社会づくりの中で実践する組織を設立。（平成28年）

取組内容

- 真庭市内の田んぼで平成29年以降、米作りを中心とした自然体験活動を実施。
- 令和元年から「てもて村プロジェクト」を始動。昔ながらの農村体験、遊びの中から「生きる力と知恵」について実感を持って学べる場を提供。
- 令和元年から市場に出せない規格外の野菜を高齢者がカットし、もったいないを形にした「お節介野菜」として販売。食品ロスを生まない取組の実施と高齢者の生きがいを創出。

活動の効果

- 自然体験活動には、毎年150人を超える親子が参加し、地域活性化や地産地消の取組として定着した。
- てもて村プロジェクトを通じ、地域内外の多様な関係者・多世代との連携・交流が図られた。
- お節介野菜では、年間19トンの野菜が捨てられることなく食品ロスが削減され、地域の高齢者の生きがいを創出した。

応募団体からのアピール・メッセージ

地域の食を通して誰一人取り残さないために、貧困や不登校の子の居場所づくりにも力を入れ、地域の人との交流を促進していく仕組みづくりを実装する。

また、お節介野菜の販路を開拓し、市内全域に活動拠点を増やしながら食品ロスを減らす循環型社会の範囲を広げていきたい。

住所・電話番号・SNS等

真庭市中396-1 Tel:0867-45-7776

中津井せんだんの会 遺産保存部

～悠久の里中津井地区の遺産整備・保守・伝承・発信～



軍配を片手に新春の抱負を力いっぱい叫ぶ



大谷古墳入口の植込み剪定状況

経緯

- 中津井地区は、湧水を多く有し、穀倉地帯として古くから栄え、歴史遺産や文化遺産が豊富な地域であるが、地元住民の高齢化が進み、後世への継承が厳しい状況になった。
- 平成30年、中津井せんだんの会内に遺産保存部を設置し、遺産の保存整備や後世への継承活動を行っている。

取組内容

- 備中三名城と言われる佐井田城址への登山道の整備、城址内の伐採、案内看板の設置。
- 毎年恒例の新春ウォーキングでは、軍配を片手に新春の抱負を力いっぱい叫ぶイベントを実施。
- 国指定史跡「大谷古墳」、「定古墳群」周辺の環境整備、来訪者への説明、案内等の活動を実施。昨年は案内石碑の洗浄と文字の塗布、植込みの剪定、草刈等を実施。
- 地元小学校の校歌に歌われている「塩川の泉」（湧水の一つ）周辺の環境整備を実施。

活動の効果

- 毎年恒例の新春ウォーキングは、子供から大人まで楽しめる地域イベントとして定着、甲冑姿の武将も参加するなど、地区内外から多くの人が集まる場になった。
- 環境整備を行ったことで、大型バスでの来訪等があり、来訪者との交流や地域の誇りと歴史の発信ができた。

応募団体からのアピール・メッセージ

中津井地域の史跡を巡るウォーキングコースを作り、文化遺産の伝承・啓発活動等に有効活用する。また、案内看板等の充実を図る。

地域の歴史的な史跡を通じて、先人たちの知恵、発想を学習し、その歴史が現在の地域を育てていることを、楽しみながら後世に伝える生きた学習の場にしたい。

住所・電話番号・SNS等

真庭市下中津井1000 Tel:080-1917-8436

ふ あ り ゑ と ひがしあわくらのうはくすいしんきょうぎかい
FARM RESORT あわのわ(東栗倉農泊推進協議会)

～岡山のとっぺんでグランピング×田舎体験～



ジビエ等の地域食材のBBQメニュー



ロゴマーク



人気の魚つかみ取り体験

経緯

- 平成27年、地域おこし協力隊として東栗倉地区に赴任した隊員が農家民泊をスタート。その宿を中心に地域を巡るツアーを定期的開催。
- 令和元年、活動を一層推進するため、農家や川魚養殖業者、観光協会等と連携した農泊推進協議会を結成。

取組内容

- 個人事業主が連携し、東栗倉地区全体を体験フィールドとして、宿泊型の農村リゾートを展開。
- 一棟貸しの宿で味わうグランピング、ジビエ等の地域食材で作るバーベキュー、魚のつかみ取りなど、体験型メニューで利用者が楽しめる工夫を実施。
- ロゴマークには、地域の名前にもなった栗(あわ)がつながり合い、あわくらが続いていく、そんな思いを表現。

活動の効果

- メディア等で取り上げられることも増え、令和4年はJTB発行の「今泊まりたい一棟貸しの宿100」に協議会の宿が掲載された。
- おしゃれさや快適さを備えたグランピングの要素を取り入れたことで、若者グループやファミリー層の利用が増えた。
- 田舎らしさ、おしゃれさ、快適さを備えた施設として地域との差別化を図り、コロナ禍においても宿泊者数の増加につながった。

応募団体からのアピール・メッセージ

今後は、地域内の空き家を活かした新たな宿泊施設の開業、棚田景観を活かした棚田夕日ツアーなども展開していきたい。

住所・電話番号・SNS等

美作市後山1431-1 Tel: 090-1181-7851

いっばんざいだんほうじん やかげちょうかんこうこうりゅうすいしんきこう

一般財団法人矢掛町観光交流推進機構

～桃源郷はなしの里で体験する、古き良き日本の田舎～



米粉を使ったピザ作り体験



山芋(自然薯)掘り

経緯

- 桃源郷はなしの里は、自然に囲まれた古き良き日本を感じられる中山間地域であるが、この地域を訪れる人はほとんどいない状況。
- 地域住民が中心となって地域振興を図ることを目的として、宿泊施設・飲食施設・キャンプ場などを整備し、その運営とPR活動を進めた。

取組内容

- 既存のキャンプ場に加え、宿泊施設とキャンピングトレーラーを設置し、多様なスタイルの農泊に対応。
- 畑や栗園も整備し、農業体験や自然体験イベントを実施。マイクロツーリズム、学生交流事業等の受入を開始。
- 米粉を使ったピザ作り、山芋掘りなどのイベントを開催。収穫等の作業は、地域住民が説明・指導を行い、来訪者と交流を実践。

活動の効果

- 多様なスタイルの農泊を可能にし、令和4年のキャンプ場の利用者は、令和2年に比べて6倍と大幅に増加。
- 利用人数の増加と共に地域住民の協力度もあがり、住民による道路の整備や草刈り等、地域全体の美化が促進。
- 農業体験では、農産物の作付・収穫等で利用者と農家とのコミュニケーションが取れ、双方共に楽しみながら交流できる貴重な場となっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

桃源郷はなしの里での宿泊や体験だけでなく、伝統的建造物群保存地区である矢掛の町並みを観光したり、夜は隣町の美星天文台で星の観測をしたりと、農泊をしながらも幅広い楽しみ方ができることをPRしていく。

住所・電話番号・SNS等

小田郡矢掛町矢掛1989 Tel:0866-83-0001 <https://japan-yakage.jp/>

みせ しょくどう

たまごかけごはんの店「食堂かめっち。」

～メインディッシュは「たまごかけごはん」～



たまごかけごはん



「食堂かめっち。」外観

経緯

- 平成17年3月、平成の大合併により誕生した美咲町。新しい町名となり知名度が低かった。
- 町出身の偉人「岸田吟香」がたまごかけごはんを全国に広めたことから、町に人を呼ぶ目玉として「卵」に着目。
- 平成20年1月、地域活性化や知名度向上を目的に「食堂かめっち。」をオープン。

取組内容

- 地元養鶏場のコクとうまみのある新鮮な卵、「つなぐ棚田遺産」に選定された大井和西の棚田で地元農家が手間暇と愛情をかけた棚田米など、美咲町産にとことんこだわった食材を使用。
- コロナ禍での休業を契機に食堂のリニューアル工事や新メニューを開発。
- イベント出店、ホームページ作成、SNS等を活用し、全国へ情報を発信。

活動の効果

- 多くのマスコミに取り上げられ、「たまごかけごはんの聖地」「たまごかけごはん発祥の地」と呼ばれるようになり、令和5年、来店者100万人を達成した。
- 地元食材を使用することで、地産地消や農業振興に貢献している。
- 取組が小中学校の授業に取り上げられ、町内の子供たちは「たまごかけごはん」を通じて美咲町の文化、歴史を知るきっかけとなっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

美咲町がますます「たまごかけごはんの聖地」として有名になるようPR活動を行うとともに、町の地域活性化や知名度向上に貢献していきたい。

住 所 ・ 電 話 番 号 ・ S N S 等

久米郡美咲町原田2155 Tel:0868-66-1123

記念賞
応募

とくていひえいりかつどうほうじんあいだうえやまたなだだん

特定非営利活動法人英田上山棚田団

～1000年続く棚田の暮らし再生プロジェクト～



稲株主の皆様と稲刈り



地区の役割も多々担う棚田団移住者メンバー

取組内容

- 持続的な里山の環境保全を目的として、地域の核となっている棚田の調査研究を行いながら地域内外の人々と連携し棚田の保全活動を実践。
- 2021年度から、地域独自の棚田オーナー制度である「棚田の稲株主制度」(棚田での農作業や里山での暮らし体験)を開始。

前回選定後の情報発信の取組

- 新聞・雑誌等・テレビ・ラジオ等への出演・掲載回数 約30回(2016-2023年)
- SNS登録者数 Facebook等 約3,500人
- 講演回数 約20回(2016-2023年)
- 視察受入件数 年間10-20件(2016-2023年、オンライン対応含む)
- 一般財団法人トヨタモビリティ基金との助成事業採択(2016-2019年)

前回選定後に発展させた取組及び成果

- 地域住民と若者と移住者(棚田団メンバー含む)が隔たりなく新たな課題等に立ち向かう意識や体制が構築され、選定時30人程度だった移住者は40人となり、地区人口150名の3割程度を占めるまでとなった。
- 「棚田の稲株主制度」を導入した結果、稲株主が100人程度となり新たな関係人口を創出したほか、集落内の提携宿での割引特典を加えたことで地区の民宿数が5軒に増え、関西の旅行会社との連携も始まった。

応募団体からのアピール・メッセージ

活動理念は「ライステラスライフ照らす」で、古い良きと新しい良きを選び続ける棚田活用を実践し、地域住人も、週1の人も、月1の人も、年1回の人も訪れてくれるような活動をするのがNPO法人英田上山棚田団です。

住所・電話番号・SNS等

美作市上山2135 MAIL:tanadadan@gmail.com

記念賞
応募くさまだい すいしんきょうぎかい
草間台エコミュージアム推進協議会

～発見草間台 発信草間台 進化草間台～



羅生門ガイドツアー(令和5年4月)



羅生門さくらまつり(令和5年4月)

取組内容

- エコツアー(都市住民との交流)ガイド養成講座により、16名のガイドが誕生。
- 羅生門ガイドツアーの開催(令和4年度から実施)
- アグリツアー(農業体験)として、令和4年度に「しいたけ植菌体験ツアー」を初めて実施。
- 羅生門さくらまつりを令和4年度から開催。

前回選定後の情報発信の取組

- ホームページとフェイスブックによる情報発信(令和3年3月にHP刷新、令和2年度まで:年12回程度)
令和3年度:40回、令和4年度:24回、令和5年度:23回(7月まで)
- 羅生門さくらまつりの報道
令和5年春開催)
 - ・さくらまつり:新聞3回 雑誌1回、テレビ・ラジオ3回
 - ・フォトコンテスト:新聞2回

前回選定後に発展させた取組及び成果

- 地域住民がガイドになることで、地元を理解する郷土愛が育まれ、連帯感も深まった。
- アグリツアーにより岡山県南等から参加希望者が殺到する程の人気となった。
- 観光協会(旅行業者)が企画募集するツアーを実現し、定着してきた。
- 羅生門さくらまつりの開催により、春4月に多くの来場があり、地域経済に好影響であった。

応募団体からのアピール・メッセージ

令和4年度からは、新見市観光協会とタイアップし、アグリツアーと羅生門ガイドツアーを絡めたツアーを計画しており、地域住民と一体となって引き続き取り組んでいる。今後も、地域の宝物を護り、魅力の発信を続けたい。

住所・電話番号・SNS等

新見市草間7471-1 Tel:0867-74-9001 <http://kusamadai.com/>

記念賞
応募うえた てるよし
植田 輝義

～農業を通じて皆様を繋ぐ架け橋になりたい！！～



肥料高騰対策 ひまわり緑肥+養蜂開始ハチミツ



黄ニラ駅弁 JR岡山駅 社長と販売PR

取組内容

- コロナ禍、黄ニラ、パクチーの需要創出のため、原材料として使用した「岡山パクチージン」「黄ニラ駅弁、冷凍弁当」を開発・販売。
- 生産資材の高騰を受け、ひまわり栽培を拡大し、緑肥とし、肥料費等を抑制しつつ環境に配慮した農業経営を実践中。また、ひまわり、パクチーの花を活用し、養蜂業を開始。

前回選定後の情報発信の取組

- 特産品である黄ニラを使った商品や自家採取のハチミツを使ったお菓子で産地をPR。
- 大学でグローバル農業についての講演を行い、学生と日本農業の強み弱みを共有し、農業の可能性を追求。
- 小学校、大学、特殊支援学校における食育活動を、今後も継続。
- 選定後(令和4年以降)、テレビ・ラジオ出演10回以上、新聞等掲載10回以上、講演は年15回以上。

前回選定後に発展させた取組及び成果

- 黄ニラを使用した商品を開発し、各方面でPR・販売することで、認知度も上がり需要が拡大し、増収増益。
- ひまわりを緑肥とすることで、生産コストの抑制、環境に配慮した農業経営を実践。また、採蜜したハチミツを連携先へ提供するなどの取組を開始。
- これらの取組が広く伝わることで、異業種企業からの取材・コラボ依頼が増加。

応募団体からのアピール・メッセージ

様々な取組を通して、産地の活性化、雇用の創出、耕作放棄地の活用など、農業従事者以外の新しい切り口によるアイデア想像が生まれると実感しており、今後、持続可能な農業社会を実現する。

住所・電話番号・SNS等

岡山市北区牟佐3060 Tel: 086-229-1129